

川の中で暮らす生き物を調べて “水のきれいさ” を知ろう！

川には、魚、エビ、カニ、貝のなかま、トンボの幼虫（ヤゴ）、ヒルやミミズなど、たくさんの生き物たちが暮らしています。これらの生き物たちを「水生生物」と呼んでいます。その中でもエビ・カニ・貝のなかまやヒルなど、川の底で暮らしている生き物は、川を流れる水の様子によって種類が大きく変わります。

「水生生物による水質の簡易調査」とは、川の中で暮らす生き物を調べることで、川の“水のきれいさ”を簡単に知る方法です。

このパンフレットでは、近畿地方（大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、福井県、三重県）の川で平成21年に行った「水生生物による水質の簡易調査」の結果を紹介します。みなさんの家の近くの川では、どんな生き物が見つかったのかな？

また、安全に川を楽しむために気をつけることや、川の中で暮らす生き物のみわけ方も紹介します。

私たちの身近な川で暮らす生き物たちのことをもっと知って、生き物がすみやすい川をみんなで大切にしていきましょう。

川の中で暮らす生き物を調べてみよう！

1 服装・持ち物のチェックと安全確認をしよう

「川の中の生き物をとるときの服装・持ち物」と「川の中の生き物をとるときに気をつける事」を3～4ページを見ながらチェックします。また、調査する場所や日にち、天気、水の温度などを記録用紙に書き込みましょう。

2 川に入って地点を決めよう

水の深さがひざぐらいまでのところで、こぶしより大きい石がある場所を探しましょう。

3 生き物をとろう

決めた地点で流れの海側に網をおいてから、その場所の石をいくつか持ちあげて、バケツの中に入れます。また、石を持ちあげたあとの川の底を足などでかきまぜて、流れてくる生き物を網で受け止めます。



4 生き物を分けよう

石の入ったバケツと網を川岸まで持ってきて、底がたいらで浅い入れ物（バット）や白い敷物の上に置きます。ピンセットなどを使ってより分け、他の入れ物に入れます。いろいろな大きさの生き物があるので、よく見て分けましょう。

5 記録・判定しよう

調べた生き物を用紙に記録して“水のきれいさ”を決定しよう。

“水のきれいさ”の目安となる生き物のうち、最も数の多い生き物とその次に多い生き物には2点（2種類まで。3種類以上がほぼ同じ数の場合は3種類まで）、その他の生き物は1点とします。そして、きれいな水で暮らす生き物・少しきたない水で暮らす生き物・きたない水で暮らす生き物・大変きたない水で暮らす生き物の4つのグループに分けて点数をつけます。合計点数が一番大きいグループが、調査した場所の“水のきれいさ”になります。点数が同じときは、よりきれいなグループになります。

川には“水のきれいさ”の目安となる30種類の生き物以外にもたくさんいます。それらについても、観察してみましょう。

例	とれた生き物	数	水のきれいさ	ポイント
橋	カワゲラ	15	きれい	2点 (いちばん数が多いから、2点だよ)
	ヒラタカゲロウ	22	きれい	2点 (次に数が多いから、2点だよ)
	オオシマトビケラ	6	少しきたない	1点
	オオニヤンマ	8	少しきたない	1点
	ヒル	3	きたない	1点
			(その他は1点)	

→ 4点 (いちばん大きいので、〇〇橋付近はきれいな水と、なります。)

6 生き物を川にかえそう

調査が終わったら、とった生き物や石は川にもどしましょう。



“水のきれいさ”の目安となる30種類の生き物たち

きれいな水	少しきたない水	きたない水	大変きたない水
カワゲラ ナガレトビケラ ヤマトビケラ ヒラタカゲロウ ヘビトンボ ブユ アミカ ウズムシ サワガニ	コガタシマトビケラ オオシマトビケラ ドロムシ ゲンジボタル コオニヤンマ カワニナ スジエビ ヤマトシジミ イシマキガイ	ミズムシ ミズカマキリ タイコウチ ヒル タニシ イソコツブムシ ドロソコエビ	アメリカザリガニ セスジユスリカ チョウバエ エラミミズ サカマキガイ